1 自己評価及び外部評価結果

（ユニット名　あきは　　）

事業所番号	0691900096		
法人名	社会福祉法人双葉会		
事業所名	グループホーム桜の里双葉		
所在地	南陽市椚塚1632-19		
自己評価作成日	令和3年　4　月　6　日	開設年月日	平成　29年　4月　1　日

※事業所の基本情報は、公表センターページで検索し、閲覧してください。（↓このURLをクリック）

基本情報リンク先	http://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/

【評価機関概要（評価機関記入）】

評価機関名	協同組合オール・イン・ワン		
所在地	山形市桧町四丁目３－１０		
訪問調査日	令和　3年　4月　27日	評価結果決定日	令和　3年　5月　6日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点（事業所記入）】

利用者が役割を持ち、楽しく過ごすことができる。『ここに居ていい』と利用者に安心していただける雰囲気の提供。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点（評価機関記入）】

事業所は、基本的な目標である「寄り添って、傾聴し、出来ることは継続してもらい、生きがいのある生活の提供」を踏まえて、基本方針・重点目標・実践計画を作り、それを職員会議で確認しながら実践に繋げるよう努めている。管理者は、特に、「生活歴を考えて、できることを活かして生活する」ことを大切にし、利用者の「生きがい」の向上を図っている。また、このため、出来るだけ地域の中に溶け込んで生活できるよう、地域との交流の拡大に努力してきたが、コロナ禍の中で不可能になったことが多いため、繋がりを切らさないようにするための方策を検討している。また、少なくなっている地域資源や他の事業所との交流機会などについても、コロナ後に向かって検討を始めている。

Ｖ．サービスの成果に関する項目（アウトカム項目）　※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
55	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる （参考項目：23,24,25）		1．ほぼ全ての利用者の
		○	2．利用者の2/3くらいの
			3．利用者の1/3くらいの
			4．ほとんど掴んでいない
56	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある （参考項目：18,37）		1．毎日ある
		○	2．数日に1回程度ある
			3．たまにある
			4．ほとんどない
57	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている　（参考項目：37）	○	1．ほぼ全ての利用者が
			2．利用者の2/3くらいが
			3．利用者の1/3くらいが
			4．ほとんどいない
58	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている （参考項目：35,36）	○	1．ほぼ全ての利用者が
			2．利用者の2/3くらいが
			3．利用者の1/3くらいが
			4．ほとんどいない
59	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている （参考項目：48）		1．ほぼ全ての利用者が
			2．利用者の2/3くらいが
			3．利用者の1/3くらいが
		○	4．ほとんどいない
60	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている （参考項目：29,30）		1．ほぼ全ての利用者が
		○	2．利用者の2/3くらいが
			3．利用者の1/3くらいが
			4．ほとんどいない
61	利用者は、その時々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている		1．ほぼ全ての利用者が
		○	2．利用者の2/3くらいが
			3．利用者の1/3くらいが
			4．ほとんどいない

	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
62	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている （参考項目：9,10,19）		1．ほぼ全ての家族と
		○	2．家族の2/3くらいと
			3．家族の1/3くらいと
			4．ほとんどできていない
63	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている （参考項目：2,20）		1．ほぼ毎日のように
			2．数日に1回程度
			3．たまに
		○	4．ほとんどない
64	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている （参考項目：4）		1．大いに増えている
			2．少しずつ増えている
		○	3．あまり増えていない
			4．全くいない
65	職員は、活き活きと働けている （参考項目：11,12）	○	1．ほぼ全ての職員が
			2．職員の2/3くらいが
			3．職員の1/3くらいが
			4．ほとんどいない
66	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う		1．ほぼ全ての利用者が
		○	2．利用者の2/3くらいが
			3．利用者の1/3くらいが
			4．ほとんどいない
67	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う		1．ほぼ全ての家族等が
		○	2．家族等の2/3くらいが
			3．家族等の1/3くらいが
			4．ほとんどできていない

山形県地域密着型サービス「1　自己評価及び外部評価（結果）」

※複数ユニットがある場合、外部評価結果は1ユニット目の評価結果票にのみ記載

自己	外部	項　目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅰ．理念に基づく運営					
1	（1）	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	理念を共有し、実践につなげている。	法人の基本方針「寄り添って・・出来ることは継続して・・生きがいのある生活・・」を踏まえて、基本方針・重点目標・実践計画を作り、それを職員会議で確認しながら実践に繋げるよう努めている。特に、管理者は、「生活歴を考えて、できることを活かして生活できる」ことを、大切にしている。	
2	（2）	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	新型コロナの影響で、地域との交流を図ることができなかった。ご家族に対しては、定期的に利用者様の様子を電話や広報紙で伝え、情報を共有できるよう心がけた。	従来は、公民館行事への参加、小中高校の訪問受入れ、オレンジカフェの開催などで、地域の一員として生活できるように努めてきたが、昨年からはコロナ禍の影響で殆ど不可能になった。地域への事業所情報の発信のあり方が検討課題になっている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	新型コロナの影響で、外部の方との交流を図ることができなかった。		
4	（3）	○運営推進会議を活かした取組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議については、書面での報告のみ。委員の方から意見を受ける機会は少なかった。	従来は、市職員、有識者、地域区長、家族代表と職員とで、2か月に1回開催していたが、現在は、運営状況や行事にかかる書類の報告に止まっている。委員からは、感染症の照会はあるが意見は少ない状況にある。	
5	（4）	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	都度、相談を行ない、協力を得る体制を整えている。	現在は、運営推進会議がコロナ過の中で報告程度に止まっているが、地域ケア会議や研修、利用者の個別の問題等で相談する場合に情報提供と意見交換を行い、市との協力関係が疎にならないように心掛けている。	

自己	外部	項　目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、環境や利用者の状態を考慮しながら、玄関に鍵をかけない工夫や、身体拘束をしないで過ごせるような工夫に取り組んでいる	身体拘束は行なっていない。危険な行動が予測される利用者様については、定期的な見守り、コールセンサー等を活用し安全に配慮している。	ケア検討会議において、不適切な対応がないか確認しながら、身体的拘束の適正化に向け話し合いを行っている。安全を確保するためのセンサーの活用が必要な場合や、無断で外出したがる利用者の見守りと寄り添いについては、話合って工夫し、また、職員の認識と支援方法が同一になるように努め、身体拘束をしないで過ごせるような工夫や鍵をかけない工夫に取り組んでいる。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないよう注意を払い、防止に努めている	日頃のケース記録、職員ミーティング等で虐待が行なわれていないか確認している。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	制度を使う機会がないため、活用するまでには至っていない。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	利用者様、ご家族へ説明し不明な点がないよう配慮している。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	ご家族の面会時、または電話等で相談している。	利用者については、日常会話の内容から汲み取っている。家族については、従来は、家族との交流会などを活用していたが、現在は、毎月の「お便り」や、通院付き添いの報告の際などを活用して聴取している。	
11		○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	職員会議や日頃のミーティング等で意見を挙げてもらっている。		

自己	外部	項　目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	職員一人ひとりの意欲向上を図るため、勤務条件や環境について、代表者とも相談している。		
13	(7)	○職員を育てる取組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	年間計画に基づき、職員研修を実施している。また、日々のミーティング、会議等で訓練を行なっている。	例年は法人全体での研修計画を活用していたが、今年は、事業所内部研修のみである。医療・感染症・認知症等時宜の課題について研修している。また、所長面談を活用して職員の研修希望を把握しながら、資格取得などにも繋げ、資質の向上を図っている。	
14	(8)	○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている	近隣の施設とは、電話や面談で交流を図っている。今後は関係機関の会議等にも出席したい。	今年度は、市内の事業所とは、定期的に、また、時宜の話題で、電話や面談による交流が行われるようになってきている。今後、さらに 様々な機会を活用できるよう図っている。	
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	利用者様ご本人に関する情報を収集しながら、かかわりを持つようにしている。日頃から利用者様のお話を伺い、信頼関係の構築を図るようにしている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	ご家族との面談で、不安や要望がないか伺う機会を設けている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	都度、必要なサービスがないか見直しを図っている。		

自己	外部	項　目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	利用者様が主体となり、職員は支える立場である認識を持ち接している。		
19		○本人を共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	面会時、かかわりを持っていただくよう配慮している。面会の機会が限られているため、定期的に連絡し、利用者様の様子を伝えるようにしている。		
20		○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	利用者様ご本人の意向を尊重し、なじみの皆さんとの関係を継続している。新型コロナの影響で家族以外の方とは面会ができないため、電話等を活用している。		
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	職員が間に入り、利用者様同士でのかかわりを促している。利用者でも自発的にかかわりを持とうとする方が多い。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	同一法人の特養に移行された方について、かかわる機会はあったが、そうでない方については実施できなかった。		
Ⅲ．その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	（9）	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	利用者様お一人おひとりとかかわりを持ち、意向を尊重するよう努めている。	理念の「生きがいのある生活」の支援をするため、日頃の会話から思いや希望を汲み取るようにしているし、気が付いたことは情報ノートに書き込みしている。不明な場合も、家族から聞いたり、職員間で話し合ったり、本人本位の支援を図っている。	

自己	外部	項　目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入所の際に、ご家族から生活歴、生活に対する意向など、情報収集を行なっている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	職員は日々観察を行ない、記録物、ミーティング等を活用し、情報の共有を図っている。		
26	（10）	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイディアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	毎日モニタリングを行ない、利用者様ご本人の状態を確認している。状態に変化がある場合は、計画の見直しを検討している。	支援項目は毎日チェックし、3か月ごとにモニタリングを行い計画を評価し、変化がなければ1年ごとに介護計画の見直しを行っている。支援検討会議では、家族の意向、生活歴や支援記録に基づいて、職員のアイデアを交換しながら、現状に合った介護計画を作成できるよう努力している。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	利用者様の状態を観察し、気づいた点があれば職員ミーティングなどで、意見交換を行なっている。		
28		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	利用者様のご自宅近辺の方々に連絡を取らせていただき、交流する機会を設けるが、最近は新型コロナの影響で実施することができない。		
29	（11）	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、かかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入所前からのかかりつけ医に継続して受診いただいている。定期受診ごとに利用者様の状態を報告し、指示を受けるようにしている。	本人や家族の意向によってかかりつけ医を定め、家族又は職員の付添いで診察を受けている。受診に際しては、受診連絡表で生活状況が医師に報告され、結果は付添い者から報告され、ケース記録に記載され、医療機関、家族、事業所三者で情報が共有されている。	

自己	外部	項　目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
30		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	かかりつけ医院の看護師へ相談し、健康観察を行なっている。		
31		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、入院治療が必要な可能性が生じた場合は、協力医療機関を含めた病院関係者との関係づくりを行っている。	入院先の病院と連携を取り、退院後の受け入れについて協議している。		
32	（12）	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、医療関係者等と共にチームで支援に取り組んでいる	早い段階から、ご家族と相談を行なうよう心掛けている。事業所でできること、できないことはあらかじめ説明を行なっている。ご家族によっては理解に差があるため、繰り返し説明を行なうケースもある。	あり方については、入所時に、出来ることと出来ないことを詳しく説明している。現在は、看取り対応は行っていない。利用者の体調に変化があれば、早い段階から、逐次、医師や関係者と相談し、適時適切な対応を心掛けている。	
33		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	マニュアルを整備している。急変時の対応については地域の看護師を招き、研修を実施。シミュレーションについては、半年に1回ほど実施している。		
34	（13）	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	避難訓練の実施のほか、市主催の水害対策の訓練に参加するようにているが、新型コロナの影響で実施できていない。	例年は年に2回、火災対応の避難訓練を実施している。地域の方も参加してもらっている。市主催の水害訓練に参加しているが、独自の訓練は、今後の課題である。隣接の施設と共同で、水や食糧の備蓄を行っている。	

自己	外部	項　目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅳ．その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
35	（14）	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	利用者様の立場に立って、言葉がけや対応を行なっている。	ホームでは、「利用者一人ひとりの特性を生かした、生きがい・役割のある生活」を支援するという意識で、一人ひとりの人格を尊重している。その際特に、言葉遣いとプライバシーに関しては、職員間で注意し合っている。	
36		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	利用者様お一人おひとりに合わせ、意思決定ができるようかかわっている。		
37		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	利用者様のペースで、過ごしていただくよう心掛けている。		
38		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	自分で服を選んでいただくようにしている。整容もできる限りご本人に行なっていただくよう働きかけている。		
39	（15）	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	食事の嗜好を把握し、好みのものを召し上がっていただくようにしている。ご飯をやわらかく炊いたり、おかずも食材をやわらかくするよう工夫している。利用者様にも調理へ参加いただき、楽しみを感じていただくよう働きかけている。	三食とも事業所内で調理し、家庭的で温かい食事を楽しんでいる。利用者は、得意な分野で、調理・配膳・後片付けなどに参加している。菜園でとれた野菜を使用する料理もある。誕生日食・いも煮・牡丹餅などの行事食など、食の楽しみを増す機会の設定にも配慮している。	
40		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事・水分の摂取量を観察し、不足になっていないか観察を行なっている。不足が心配される利用者様については、補助食を検討を行なっている。		

自己	外部	項　目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
41		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後、歯磨きやうがいの支援を行なっている。夜間は義歯洗浄の支援を行なっている。		
42	（16）	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている	排泄表を作成し、個々人の排泄のパターンを把握し、できるだけトイレで排泄ができるよう支援している。	一人ひとりの排泄記録を踏まえて、排泄リズム等について話し合い、適時の声掛け、さりげなく誘導することにより、なるべくトイレで、自分で排泄ができるよう支援している。着衣や使用介護用品などについても評価を重ねて、丁寧に検討している。	
43		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	便秘を防ぐ食材を取り入れている。また、可能な限り活動の機会を設けて改善を図っている。		
44	（17）	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、事業所の都合だけで曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援をしている	お一人おひとりの入浴日は決めず、声がけし希望のあった方に入浴してもらっている。	利用者の希望を踏まえ、入浴日は決めず支援している。入浴を好まない方には、声掛けや誘導、楽しみ方を工夫している。機械浴もあり、安全に入浴できる環境をの中で支援が出来ている。	
45		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々の状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	お一人おひとりの体力、体調に合わせて休息をとっていただいている。		
46		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬の目的、効果を把握し、状態の観察に当たっている。		
47		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	役割や楽しみを持っていただくことができるよう、お一人おひとりの興味、関心を把握するよう心掛けている。		

自己	外部	項　目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
48	（18）	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	お一人おひとりの希望を伺い、個別に対応できるよう配慮している。	従来は、春から秋まで多くの季節的外出行事があったが、昨年は紅葉ドライブだけであった。このため、特に、畑の管理、花壇の水やり、付近の散歩などで外気に触れる機会を得られるように配慮した。畑で作った芋で芋煮会をしたり、また、運動不足になりやすいので、屋内での運動会の開催などにもトライして、気分転換を図った。	
49		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	預り金を活用し、利用者様がお金を使うことができる環境を整えている。		
50		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	利用者様から希望があれば応じている。手紙、荷物が届いたときは、利用者様と一緒に電話や手紙を書いたりし、返事をする機会を設けている。		
51	（19）	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	室温や明るさの調整、清潔に努めている。季節に合わせた装飾、雰囲気を作り、快適に過ごしていただけるよう努めている。	温度や湿度、明るさが管理されている居間に、テーブル・椅子・ソファーが置かれ、そこで利用者が、それぞれ思い思いに作業したり、寛いだりしている。壁面やテーブルは、季節の飾り物が置かれたり、思い出の写真が飾られている。ゆったりとして居心地がよさそうである。	
52		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	利用者様の希望に応じて、対応できるよう配慮するが、最近は新型コロナの影響で全く実施できていない。		

自己	外部	項　目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
53	（20）	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	ご家族と相談しながら、自宅と同じような環境を提供するよう心掛けている。	出来るだけ自宅に近い住居環境とするように、馴染みの身の回り品を持ち込んでもらい、また、楽しい想い出の写真などで部屋を飾ってもらっている。職員は、清掃にも配慮している。	
54		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	個々人の能力を分析し、ご自分で安全に活動できるよう環境整備に努めている。		